

海うらら

海洋生物観察記

英国留学中、海洋生物学を学んでいました。
生き物達が教えてくれた雑学を紹介します。



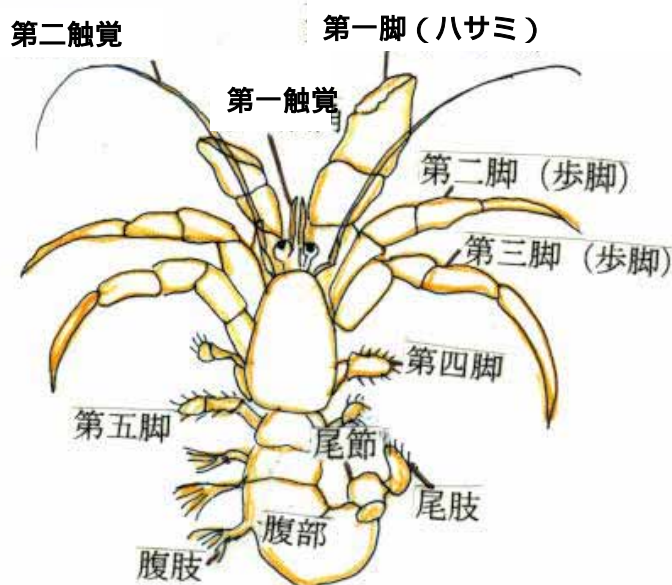
【ヤドカリ不動産のお客様】

水槽にはヤドカリ君が5匹いる。5匹とも個性が強く、非常にワガママなので、ウニ、ヒトデ、フジツボ、エビ達が住んでいる水槽の中で、とりわけこのヤドカリ君達に手を焼いている。ヤドカリという生き物は、エビ・カニの仲間（甲殻類）で、定期的に脱皮をして体をひとまわりずつ体大きくして成長する。人間の子供の靴が、足が大きくなるにつれ、キュウクツになるのと同じで、ヤドカリも脱皮して体が大きくなると今まで住んでいた「家」がキュウクツになる。その為、前より少し大きいサイズの「家」に引越しをする。

ヤドカリの殻は貝類のように成長と共に貝殻も大きくなってくれない。名前の通り、“宿を借りている”だけなのだ。ヤドカリの腹部はやわらかく、硬い貝殻は弱い腹部を守る為に“宿”は無くってはならない物だ。ヤドカリにはハサミを含めて10本の足があるが、最後の4本は退化して、小さくなっており、貝殻を背負う為に使われている。尾の部分には、エビにあるようなシッポもあるが、やはり小さく、殻が外れない様に引っ掛ける役割をしている(図1)。ヤドカリは、家がキュウクツになると、広めの「空き家」(貝殻)を探す。ヤドカリの引越しは、体が大きくなった時に限らない。たとえ今の家に不自由していなくても、自分の家より良い家を見つけると、別のヤドカリが住んで居ようとも、極悪非道な『追い出し大作戦』を展開して家を横取りしようとする。例えば、殻をガンガンたたいて騒音で住人を困らせたり、殻をユラユラ揺らしたりする。住人がフラフラしてきた所を見計らって、引っ張り出し、追い出して、殻を奪ってしまうのだ。追い出された住人は、追い出したヤドカリの残した殻に入るしかない。このように、自然界では、空き家を見つけたり、他のヤドカリから奪ったりして、ヤドカリ自身が「家探し」をするものだが、我が家の水槽の中のヤドカリ達には、私が『ヤドカリ不動産・英国 Bangor 支店・営業担当』として、「家探し」の代行業務をさせていただいている。物件を数多く提供しようという心がけている私だが、さすがに生きていく貝の殻を横取りする気にはなれないので、地道に「空き家」を歩いて探す事になる。これが思ったよりも大変で、ヤドカリの家にちょうど良さそうな貝を見つけた！と、喜んで拾い上げれば、

『ワタシに、何の用?』とばかりに、生きた巻き貝がネットリとした顔でこちらを見る。せっかく見つけても十中八九、空き家ではなく、まだ生きている貝なのだ。大変な苦労をして何箇所も海岸を歩き回り、比較的空き家の多く落ちている場所を見つけだす。そして、色々な間取り(大きさ)、色、形の貝殻を集め、『おすすめ物件』を各種用意する。ヤドカリは欠陥住宅には引っ越さない。殻に穴があいているような“穴あき物件”や、フジツボ等が沢山付いているような“イソウロウ付き物件”は用意しても借り手が付かない。なにしろ、ヤドカリは結構「家」の好みにウルサイのだ。一つだけ物件を提供しても、引越しはするが、住み心地が悪いのか、すぐに古い家にもどってしまったりする。そこで、私のヤドカリ不動産ではお客様に一度に多くの家を見て、比べてもらい、満足のいく家を選んでいただく事に努めている。そして、物件の展示場にご案内するのはお一人様ずつである。複数のヤドカリの前に一つの「空き家」を置いたりしようなら、良い家を巡って「新居争奪戦」が始まる。ケンカを観戦するのが好きな人なら、とても楽しめると思うが、私はヤドカリがケガでもしないかと、ハラハラ、ドキドキしてしまうので、どちらかと言えば、ヤドカリが一匹で多数の『おすすめ物件』から、どれにしようか、と新居を悩みながら選ぶ姿を観察する方が好きなのだ。

人間の世界でも、住宅の好みは人それぞれだが、ヤドカリにもそれぞれの理想の家があるらしい。我が家のヤドカリ君達の好みもまちまちである。地味でこじんまりした貝を選ぶヤドカリ、やたらと派手で美しい貝殻を選ぶヤドカリ、歩みにくそうな長細い形の貝を選ぶヤドカリもいる、他には、水槽の中で一番小さなヤドカリのくせに、体の大きさに見合わない大きな家を選ぶ『大邸宅志向』の見栄っ張りなヤドカリもいた・・・。



(図1) ヤドカリの構造

第一脚で物をつかんだり、食べ物をちぎったりする。第二、第三脚は歩行に使う。第四、第五脚は退化し、貝殻をつかむのに適している。尾肢は殻が取れない様に引っ掛ける為に使われる。

『大邸宅志向』のヤドカリは、殻が大きすぎるので、歩く時はズルズルと貝殻を引きずり、少しずつしか前に進めない。小さいヤドカリなのに、大きな家を選ぶのは、体を大きく見せて、自分より大きなヤドカリにイジメられない為の策なのだろうか？自然界においては、“動きにくさ”は逃げる際に不利なはずだし、天敵に食べられそうになった時、やたらと隙間があると簡単に引きずり出されてしまうのでは？とよけいな心配をしたくなる。派手で美しい貝殻も自然界では目立つはず。ヤドカリは水槽の中には天敵がいないのを知っているのだろうか。そんなことを考えながら見ていると、本当に飽きない。こんなに楽しいものを一人で見るのはもったいないので、ある日本びいきの英国人にヤドカリが家選びをする様子を見せた。一通り見た後、彼女は『ティーセレモニー（茶道）の作法を見ているようだわ』と言った。確かに、殻をゆっくりと回すあたりは茶道の作法に似ているかもしれない。

ヤドカリ不動産の営業所では、まず、お客様のヤドカリを小さめの水槽にご案内する。そこには20個程、「おすすめ物件」の貝殻が用意しており、お客様には心行くまで選んでいただく。ヤドカリを水槽に移すと、ヤドカリは茶道さながらの美しい作法で「おすすめ物件」を吟味するのだ。

作法その1、ヤドカリ、貝殻に近づき、おもむろに一つ選ぶ。

作法その2、ヤドカリ、二つのハサミで貝殻をそっと持ち上げ、それをゆっくり回転させる。すると、貝殻の内部（巻貝の巻いている所）に入っている空気が殻を回す事によって、見事にポコッポコッと出てくる。ヤドカリは貝殻の巻いている方向と逆にちゃんと回すのだ。

作法その3、ヤドカリ、二つのハサミを貝殻の入り口に当ててみる。ハサミで入り口を計るだけで、自分の体に合う大きさの殻かどうか判るようである。ハサミで測定してみて、小さすぎたり、大きすぎたりして気に入らない場合はすぐさまポイッと捨てて、次の物件の吟味に入る→（新しい貝を選び、作法その1からやり直し）

作法その4、ヤドカリ、貝殻の手触りを確かめる。ハサミで貝殻の表面をゆっくりとなで、穴が空いていないか、表面がゴツゴツしていないか・・殻が欠けていないか、等をくまなくチェックする。特に穴のあいているものは、見た目にも悪いし、外敵に襲われやすいからだろうか、大抵、却下される。欠陥住宅には住みたくないのは、ヤドカリも人間も同じであろう。だが、貝殻が手に入りにくい海岸では、仕方なく、皆、穴あきのボロボロハウスに住んでいたりする。成長を抑制して引越し回数を減らすという例も報告されている。

作法その5、中に入ってみる前にキレイにお掃除をする。中に入っている砂、ゴミ、表面の汚れをハサミで丁寧に取り除く。

作法その6、ヤドカリ、もう一度ぐるりと貝殻をゆっくりと回しながら総チェ

ックする。異常が無ければここで、初めて仮入居する。(ヤドカリにとって、柔らかい体の部分をさらすのは危険極まりなく、この作業は素早く行われる)新しい家の入り口を体に近づけ、するっと新しい貝殻に入る。新しい家に移った後も、古い家はハサミでシッカリ持って放さない。(ヤドカリにとって、住み心地が悪かった時の為、古い家を確保しておくのは、極めて重要な事らしい)

作法その7、ヤドカリ、もう一度古い家に戻り、比べて見る。(新しい殻がとても気に入った場合は戻らないが、多くのヤドカリはシッカリ比較検討する)

作法その8、ヤドカリ、新しい家が全ての面で良い物件であることを確認した上、新しい家に落ち着き、今まで確保していた元の家をポロリと放す。

フシギな事に、私の水槽の中のヤドカリ達は、この長い一連の動作を皆だいたい同じ順序で行っていた。中にはとても優柔不断なヤドカリもいるもので、何度も昔の家に戻って見たり、また新しい家に入っていたりする。

私が観察していた5匹のヤドカリは、英国産で、水槽には2種類いた(図2)。一つは英国各地で最もよく見られる種の *Pagurus bernhardus* これには *Calliactis parasitica* というイソギンチャクがついている事があり、水槽内にも一匹イソギンチャク付きのものがいて、家を引っ越す度に、イソギンチャクを新しい殻にヤドカリ自身が付け替えていた。私がイソギンチャクを触るとひっこんでしまい、ビクともしないというのに、ヤドカリが優しくハサミで撫でると、いとも簡単に貝殻から離れ、新しい殻に素直に付け替えられてしまうのである。イソギンチャクを新しい殻の上に付け替えている時のヤドカリはヘアースタイルを整えている様に見え、なんともカワイイ。もう一種の *Pagurus prideauxi* というヤドカリもイソギンチャク付きなのだが、とても変わった外見をしていて、貝殻が *Adamsia carciniopados* というイチゴのような模様のイソギンチャクにすっぽりつつまれている。このイソギンチャクは、なかなか興味深い。ヤドカリが成長するにつれ、ご親切にもイソギンチャクは、貝殻の端にキチン質を分泌し、殻の端の拡張工事をするのである。その為、この種類のヤドカリはイソギンチャクのおかげで、引越しの回数が少なくて済むそうだ。しかし、我が家では、不動産屋の営業担当の腕が良かったのか、イチゴ模様の服のお客様は度々、来店され、新居のご契約、ご購入、お引越しをされていた。

(図2) 右: ヤドカリ *P.*

bernhardus ; イソギンチャク *C.parasitica* 左: ヤドカリ *P. prideauxi* ; イソギンチャク *A. carciniopados* 貝殻をすっぽり包んでいる。

